目　次

事例集のコンセプト……2

「ネットワーク・コミュニティ」と「地域コミュニティ組織」……3

視察・研修の進め方……4

事例紹介

〈組織体制・仕組み〉

① 多世代を巻き込む「企画委員会」の設置
コミュニティひろばi-meiji（竹田市）……5

② 柔軟な活動を引き出す「プロジェクト制」の導入
中津江むらづくり役場（日田市）……7

③ 若手世代が支える部会活動と担い手育成の仕組み
奈狩江地区住民自治協議会（杵築市）……9

④ 広い組織区域(中学校区)での学校との連携
山の手ひとまもり・まちまもり協議会（別府市）……11

⑤ 2つの部会を支える「若者部会」の設置
青山地域コミュニティ協議会（佐伯市）……13

〈各分野の活動・事業〉

⑥ 地域活性化を目指した特産品の開発
大神活性化推進協議会（日出町）……15

⑦ 小学校を巻き込んだ移住事業
谷むらづくり協議会（由布市）……17

⑧ 地区の魅力を伝える商品開発
大津留まちづくり協議会（由布市）……19

⑨ 地区全体を巻き込んだ生活支援事業
くまげ支えあいの会「大輪」（国東市）……21

⑩ 多世代とつながるPTAとの連携
中央地区振興協議会（臼杵市）……23

事例組織のその他活動……25

新たに組織を設立したいと思ったら……27

「マネージャー」のチームをつくろう！……28

※1　①～⑤の組織体制・仕組みの事例は、総務省作成「令和５年度地域運営組織の形成及び持続的な運営に関する調査研究事業報告書」の、65-66ページ「継続的に活動していく上での課題と解決に当たって求める支援」の項目に沿って分類しています。

▼活動していく上での課題※1

①	事務局運営を担う人材の不足
②	地域住民の活動への理解不足
③	活動の担い手となる人材の不足
④	自治会・町内会との関係役割分担
⑤	団体の役員・スタッフの高齢化

▼活動内容※2

⑥	地域産業活性化	
⑦	子ども支援子育て支援	その他（移住支援）
⑧	地域産業活性化	
⑨	生涯学習・健康づくり	高齢者等の生活支援
⑩	住民交流	安全・安心
事例組織のその他活動	高齢者等の生活支援	地域環境整備 / 行政の代行

※2　⑥～⑩の各分野の活動・事業の事例は、大分県作成の「ネットワーク・コミュニティの活動内容」（住民交流、生涯学習・健康づくり、高齢者等の生活支援、子ども支援・子育て支援、安全・安心、地域環境整備、地域産業活性化、行政の代行、その他）に沿って分類しています。

事例集のコンセプト

皆さんの組織の課題は何でしょうか。下記にあるようなお悩みや、今後の計画でやってみたいことはないでしょうか。

この事例集は、皆さんが抱える課題の解決、新しい活動のヒントを紹介します。**組織体制・仕組みを５事例**（目次の①～⑤）、**各分野の活動・事業を５事例**（目次の⑥～⑩）、全部で10事例を掲載しています。

この事例集のもうひとつの目的は、**組織同士の交流促進**です。研修会の講師や視察先として検討していただけるように、各事例の組織の連絡先やSNSの情報も掲載しています。ぜひ興味を持った事例の組織と連絡を取っていただき、交流を深め、活動や組織運営の活性化につなげていただければ幸いです。

※ 紹介する各組織には、SNSなどの情報の公開、視察の受け入れへの対応について了解を得ています。

※ この事例集に掲載している情報は令和６年12月現在のものであり、連絡先や活動内容などは変更される可能性があります。

組織運営、こんなお悩みありませんか？

- 部会を置いたが、上手く機能しない ▶ 事例①
- 若い人が活躍できる仕組みがない ▶ 事例①②③⑤⑩
- 活動の企画運営の負担が事務局に集中している ▶ 事例①②
- 地域内に組織の存在が浸透していない ▶ 事例①②④⑩

こんな事業や活動、やってみませんか？

- 地域で自慢できる特産品を開発したい ▶ 事例⑥⑧
- 移住希望者と交流したい ▶ 事例⑦
- 学校やPTAを巻き込んだイベントがしたい ▶ 事例⑦⑩
- 使っていない農地の活用法を知りたい ▶ 事例⑥
- 生活支援有償ボランティアの仕組みについて知りたい ▶ 事例⑨
- いろんな世代を巻き込んだイベントがしたい ▶ 事例⑩

「ネットワーク・コミュニティ」と「地域コミュニティ組織」

地域の持続のための「ネットワーク・コミュニティ」

大分県が進める「**ネットワーク・コミュニティ**」について説明します。人口減少・高齢化の進行による、共同作業や伝統行事の開催など様々な集落機能の低下は、住民の安全・安心な生活に影響を与えます。

大分県では、住み慣れた地域に住み続けたいという住民の願いを叶えるため、平成20年度を「小規模集落対策元年」と位置付け、集落機能の維持と地域の活力づくりに本格的に着手しました（※令和6年度より「小規模集落」から「高齢化集落」に名称変更）。

平成27年度からは、各集落の課題を近隣の複数集落や関連する地域組織などで補い合う「ネットワーク・コミュニティ」の構築を進めています。

単独集落のみでは困難となりつつある共同作業や各種の行事の持続、再編のため、複数の集落をネットワークでつなぎ、相互に補い合いながら全体として地域の機能を維持していく仕組みです。

「ネットワーク・コミュニティ」の核となる「地域コミュニティ組織」

「ネットワーク・コミュニティ」の中心的な担い手となっているのが、「**地域コミュニティ組織**」です。地域によって「まちづくり協議会」「住民自治協議会」「地域振興協議会」など、様々な名称があります。**地域の暮らしを守るために、住民が中心となって形成する総合的な地域組織**です。地域の将来について住民の皆さんが話し合い、様々な地域課題に取り組んでいます。

令和６年９月現在、県内には129の地域コミュニティ組織があります。令和５年度末時点で**18市町村すべてにひとつ以上の組織があり、これは全国でも大分県だけ**です。県では、ネットワーク・コミュニティを機能させていくために、地域コミュニティ組織の立ち上げ、運営を支援しています。

視察・研修の進め方

この事例集の目的のひとつは、**組織同士の交流促進**です。研修会の講師や視察先として検討していただけるように、各事例の連絡先やSNSの情報も掲載しました。ここでは、視察や研修会の進め方について整理します。まずは視察のポイントです。

視察成功の10か条

- 事例は**規模や組織図が似ているところ**を（置き換えてイメージしやすい）
- 参加は**5人程度**で（大人数の参加は日程調整、移動手段の確保が大変）
- **目的・聞きたいこと**をはっきり伝えよう（相手も準備しやすい）
- 参加者は**事例集などで予習**を（基本的な説明を省き、滞在時間を有効活用）
- 先方には、**一般の部会員など**にも参加依頼を（多角的に意見を聞ける）
- 話だけでなく**活動の現場の見学**を（活動の内容、利用者の様子を体感）
- 後日の問い合わせのためにも**信頼関係**を（前後の雑談が大切）
- （おみやげと別に）**謝礼金**を（対等な立場で話を聞くために）
- 帰りの**車内で振り返ろう**（忘れる前に感想やアイデアを共有しよう）
- 帰ったら**検討会**を開こう（報告だけでなく自分の地域に置き換えた分析も）

視察と研修会のメリット・デメリット

視察と研修会は、それぞれメリットとデメリットがあります。視察は活動の様子が見学でき、幹部以外とも交流できるメリットがありますが、参加者の予定を合わせることが難しく、バスの借り上げなど費用も掛かります。

他方、講師を招く研修会は、地元で行うので参加しやすくメンバーが共通認識を持てるメリットがありますが、講師は通常会長や事務局長など少人数です。多面的に意見を聞いたり、活動の現場の雰囲気は伝わりづらくなります。

どちらか一方でなく、まずは中心メンバーで視察をし、アイデアが固まってきたら地域に講師を招き研修会を行うなど、**地域の事情やプロセスに合わせて、上手く組み合わせて実施する**のが理想です。